

## 第7回 EAS エネルギー大臣会合 共同声明(仮訳、暫定版)

2013年9月26日、インドネシア・バリ

1. 第7回 EAS エネルギー大臣会合は、2013年9月26日にインドネシアのバリで開催された。インドネシアのジェロ ワチック エネルギー鉱物資源大臣が議長を、日本の赤羽 一嘉経済産業副大臣が共同議長を務めた。また、会合には、ASEAN 各国、豪、中、印、日、韓、NZ、露および米のEAS各国から、エネルギー大臣および高級事務レベルと、ASEAN 事務局次長が参加した。
2. 大臣は、世界の経済展望の変化における、世界のエネルギー市場の不安定性に留意し、EAS 地域のエネルギーセキュリティ強化とエネルギーアクセスの改善を目的とした、EAS エネルギー協力の重要性を確認した。大臣は、EAS各国に対し、エネルギー効率の改善や代替／再生可能エネルギーの導入促進、開かれた、透明なエネルギー市場の発展といった分野における必要な行動を取ることを促した。
3. 大臣は、EAS エネルギー協力を評価するにあたり、省エネルギー目標と行動計画の設定、AEEC 省エネルギー協力、EAS 省エネルギーポテンシャル及びアウトルック、省エネルギーカンファレンスやロードマップを含む、2012年－2013年の省エネルギー作業部会の活動計画の執行における着実な進捗を歓迎した。大臣は、2035年には EAS18ヶ国の総エネルギー需要が世界需要の約70パーセントを占めることから、今後の省エネルギーの重要な役割を再認識した。大臣は、省エネルギーにおける人材育成や情報共有のための活動実施による、EAS 参加各国の関係機関の貢献に感謝の意を表明した。大臣は、また、2013年－2014年の省エネルギー作業部会の活動計画や、将来の省エネルギー推進の中心となる、エネルギー管理の高度化による省エネルギーポテンシャルに関する日本の新たなイニシアティブを歓迎した。
4. 大臣は、輸送等目的のバイオ燃料作業部会におけるさらなる進展、特に、関係各国のバイオ燃料利用の優れた実践を含む、東アジア各国のバイオ燃料データベースのさらなる発展、アジア・バイオマスエネルギー研究者招聘プログラムでの研究活動、およびERIAによる、東アジアのバイオディーゼル燃料標準化や持続性指標を含むバイオマス利用の持続性評価の共同研究を歓迎した。大臣は、また、東アジアの再生可能モビリティエネルギーのベンチマーク並びにアジアバイオ燃料市場ポテンシャルの新たな共同研究の開始を留意した。大臣は、エネルギーセキュリティ上の懸念の対処への可能性を信じ、バイオ燃料への関心を再認識した。この点において、大臣は、EAS各国に対し、輸送等目的のバイオ燃料作業部会のプログラムや活動の更なる強化を促した。
5. 大臣は、エネルギー市場統合作業部会の主催下で、シンガポールエネルギー市場庁とニュージーランドエネルギー庁により、第一回 EAS エネルギー市場規制撤廃フォーラムが2012年10月23日に成功裡に開催されたことを留意した。大臣は、2012年－2013年の活動

における、電力送電網への再生可能エネルギーの導入に焦点をあてた、“東アジアのエネルギー市場統合(EMI)”に関するERIAの研究調査を留意した。

6. 大臣は、2012年11月の第7回東アジアサミットにおける、米国、ブルネイ及びインドネシアによる米国アジア太平洋包括的エネルギー協力(USACEP)の宣言を歓迎した。大臣は、新たな、4つ目の作業部会である、“再生可能・代替発電作業部会”の設立を歓迎し、またUSACEP及びEAS ECTF下のひとつの活動として、包括的な協力を創設したブルネイと米国を祝福した。新たな作業部会は、a)投資拡大に向けた政策強化、b)再生可能エネルギー技術の実証と試験、c)再生可能エネルギー資源マッピングと知見の共有、d)エネルギーセクターにおける気候変動影響、e)持続可能な水力発電技術の開発、f)アジア各国における再生可能、在来エネルギー資源の持続可能なベストミックスの研究、g)東アジアにおける在来型、新型地熱資源利用の持続性評価、の7つの新たな活動を実施する。大臣は、新たな作業部会において、米国とブルネイが作業部会全体をコーディネートし、また5つの活動を支援することに感謝の意を表明した。また、大臣は、日本が残り2つの活動を支援することを歓迎した。大臣は、2013年9月8日から10日にかけて、ブルネイ ガドンで開催された、再生可能・代替発電作業部会第一回太陽光発電関連ワークショップの成果を歓迎した。大臣は、EASにおける再生可能、代替発電の展望の改善に向け、新たな作業部会下でのさらなるプロジェクトの支援をEAS各国に促した。大臣は、また、インドネシアと米国による、グローバルガス市場の変化及び非在来型ガスに関する、地域のワークショップが2013年5月に、ジャカルタにおいて成功裡に開催されたことを留意した。大臣は、また、ブルネイ、シンガポール及び米国による、電力市場や国際連携に焦点をあてた官民連携会議が、2013年10月29日のシンガポール国際エネルギー週間と併催されることを歓迎した。
7. 大臣は、EAS エネルギー協力の強化とエネルギーセキュリティを促進するためには、増大していく地域のエネルギー需要や、既存のエネルギーインフラに及ぼす自然災害や極端な気候によって生じる影響を考慮し、EAS 地域におけるエネルギー需給に関する中長期的なアウトルックを共有することが重要であることを認識した。この点において、大臣は、東南アジアおよびEAS 地域のエネルギーアウトルックの策定における、ACE、ERIA、IEA、及びその他関係者の緊密な協力を認識した。大臣は、特に、IEAの世界エネルギーアウトルック 2013年度版の特別レポートとして発行される、東南アジアエネルギーアウトルックとERIAの東アジアエネルギーアウトルックを歓迎した。このアウトルックは、関連地域の国内エネルギー需要見通し、エネルギー資源や供給ポテンシャル、および国内利用と輸出のバランスを取るためのエネルギー開発への示唆やエネルギーセキュリティ、関係地域の環境、経済への影響に関する質の高い分析を提供するものであり、ERIAとIEAとの協力によるフォローアップが期待される。また、大臣は、ASEAN エネルギーアウトルックワークショップを2013年5月に開催したタイに、感謝の意を表明した。
8. 大臣は、2012年の大臣会合で開始が合意された、次にあげるERIAの調査研究が順調に進捗していることを歓迎した。(1)中長期エネルギー需給見通しの策定、(2)高効率火力発電を含むクリーンコールテクノロジーによる石炭の戦略的活用、(3)電力インフラの最適化、(4)

原子力発電の安全管理、(5)スマート都市交通による運輸部門の省エネルギー。また、大臣は、EAS地域における持続可能な天然ガス市場に関する新たな調査研究の開始を支持した。大臣はEAS地域のエネルギー協力やエネルギーセキュリティの強化に対する関係機関の貢献に感謝の意を表明した。大臣は、今後のASEAN及びEASエネルギー協力関連会合における、調査研究や協カイニシアティブの成果の報告をERIAに課した。

9. 大臣は、2012年の東アジアサミットでの首脳間の期待に沿い、2013年5月に、カンボジアと日本の共同議長により開催された、低炭素成長に資する技術に焦点をあてた、第2回東アジア低炭素成長パートナーシップ対話の成果を歓迎した。大臣は、排出量削減に高いポテンシャルを持つ地域への適切な技術の導入が有効であることを認識し、市場メカニズムや技術移転を含んだ様々なアプローチが技術普及を促進する中心的な役割となることを留意した。また、大臣は、低炭素成長を実現するためには、官民双方の考えの提供が不可欠であることに留意し、日本からの提案により、民間セクターからの主体的な参画によるハイレベル・フォーラムが、2014年に開催されることを歓迎した。
10. 大臣は、EAS エネルギー協力のさらなる発展のため、2014 年ラオスで再会することに合意した。
11. 大臣は、インドネシア政府と国民による第7回 EAS エネルギー大臣会合のための温かい歓迎と素晴らしいアレンジに感謝の意を表明した。